

協議員から出された意見

第20回協議会

「必要性の有無（効果と影響）」について

- ・換気所は、今後検討していく外環道本線及び連絡路の延長、勾配や交通量等に基づき、必要となる風量等を算出して、必要数や位置を検討していく。その際、沿線や地上部への影響を極力小さくする観点が必要である。
- ・トンネル出口からのガス漏れ出しを防ぐため、一般的にジャンクション及びインターチェンジでは換気所が必要になるので、インターチェンジがない場合でも最低3カ所は必要になると考える。
【提出資料補足説明】(伊勢田協議員)
- ・外環の料金設定等、将来交通量予測のための設定条件を明らかにすべき。また、予測値についてはケース別に示すべき。
【提出資料補足説明】(栗林協議員)
- ・野川からどのくらい離れたところでどのように掘り返すのか。また、地下水に影響が出るとわかった場合に、計画の変更や廃止はあり得るのか。どのような対策を考えているのか示すべき。
【提出資料補足説明】(江崎協議員)
- ・青梅街道インター設置は杉並区には無理。インター計画の場所がいかに学校や幼稚園のそばにあるか、一度場所を視察してほしい。
【提出資料補足説明】(宿澤協議員)
- ・現時点では将来交通量の予測をするための条件がまだ確定していない。これらの検討作業がまとまり次第、外環を含めた将来交通量の予測を実施する予定である。
【提出資料補足説明】(川瀧協議員)
- ・野川の開削工事について、野川自体を掘ることはないが、川沿いに壁を立てて掘ることとなる。
【提出資料補足説明】(伊勢田協議員)
- ・開削工法の場合は、工事中及び完成後の両方において地下水の流れに影響が生じる可能性があると考えられる。
- ・野川近辺の自然環境保全のためには、現地調査に基づくシミュレーションや保全対策が不可欠である。
(伊勢田協議員)
- ・環境に関する取り組みという点で、市民が参加できる仕組みができないものか。
(栗林協議員)
- ・インターチェンジをつくれれば開削となり、善福寺池がどうなるかわからないのではないかと。
(宿澤協議員)
- ・地下水の保全・回復については、難しい問題であるがどういう形で回復していくか方策を考えるべき。
(武田協議員)
- ・シールド工法及び開削工法の両面における地下水への影響を検討するため、ボーリング調査をすべき。
(倉田協議員)
- ・工事により、生活用水がなくなることは大変なことなので、ボーリング調査はしっかり行うべき。
(橋本協議員)
- ・地下水については、専門家の意見やアドバイスいただきながら調査を行いたい。
- ・動植物についても、一通りの調査だけでなく、きめ細かい調査を行いたい。
(伊勢田協議員)
- ・計画地のどの辺に湧き水があり、どのように流れているのか示してほしい。
- ・今回、1年経つので、必要性の有無について判断すべき場面も来ると思うので、行政として決意表明すべき。
(濱本協議員)
- ・地下水の状況について、都及び区市において、どういう情勢になっているのか、何ができ得るのか検討させていただきたい。
- ・交通量の計算方法及び論点メモで問題提起されている事柄の結論時期について、次回返答する。
(伊勢田協議員)
- ・我々が地元の説明するために、外環をつくるとすればどう影響があるのか6月までに出していただきたい。
(新協議員)
- ・環境アセスメントを活用しながら、詳細な情報を出していきたい。
(伊勢田協議員)
- ・周辺住民のために議論すべきことは、予測が外れ影響が出た場合、どんな対策が必要なのか、あるいは計画そのものに問題があるのではないかとということであり、外環に関しては、最大の交通量を通った場合、換気施設が何ヶ所必要なのか、どういった影響があるのか示すべき。
(江崎協議員)
- ・環境アセスメントについても、P I的な思考を考えていくべき。
(栗林協議員)
- ・ジャンクション及びインターチェンジイメージについては、改めて別の機会に集中議論していただきたい。
(武田協議員)
- ・イメージモデルの資料の取り扱いについては、慎重に行ってほしい。
(武田協議員)
- ・各地区のインターチェンジ及びジャンクションのイメージの問題よりも外環の必要性について議論する必要がある。
(濱本協議員)
- ・武蔵野市からの青梅街道インターの利用が1日1,600台というのは不自然である。
(米津協議員)
- ・交通の推計について、不確かな点は正確に調べて返答したい。
(伊勢田協議員)

- ・将来交通量について、時々数字が変わるのはどういうことなのか説明していただきたい。
- ・地下の場合はこのようなことが問題であるということ整理し、出していただきたい。（栗林協議員）
- ・将来交通量及び有識者委員会との比較について、次回説明させていただきたい。（川瀧協議員）
- ・今後、通行車両が減るような規制の変更は考えているのか。（秋山協議員）
- ・今後の貨物車の積載量の規制について、次回説明させていただきたい。（川瀧協議員）
- ・東八道路の現況交通量について、教えていただきたい。（新協議員）
- ・イメージ模型図について、現在の計画はこうで、大深度にした場合の模型はこうで、という説明をわかりやすくするために41年当時の都市計画図と併せて、次回提出していただきたい。
- ・地下40メートルの場合の移転戸数はどの程度か。（井上協議員）
- ・深くなると開削の延長が増えて、移転棟数が増えるということはない。（伊勢田協議員）
- ・大泉の問題がクリアできるならば、中央高速や青梅街道の問題も緩和されるのではないか。（武田協議員）